

研究実施のお知らせ

2019年11月4日 ver.1.0

研究課題名

破裂脳動脈瘤の術中クモ膜下血腫洗浄と周術期管理がもたらす治療効果に関する後ろ向き調査

研究の対象となる方

2014年04月から2019年03月の間に島根大学医学部附属病院脳神経外科で脳動脈瘤の破裂によるクモ膜下出血に対して手術加療を受けられた方。

研究の目的・意義

脳動脈瘤は破裂するとほとんどはクモ膜下出血を発症し、約25%は死亡し、治療し得ても約40%は重篤な後遺症をのこす極めて予後不良の疾患です。特に発症年齢が高齢であるほど脳動脈瘤の再破裂や急性水頭症という続発症が生じやすく、予後をさらに悪いものにします。このクモ膜下出血は、水頭症や遅発性の脳梗塞の原因となる他に脳損傷をきたすことがあり、破裂後は可及的速やかに処置することが予後の改善に寄与することが報告されていますが、治療法については施設によって様々で決まったものではありません。

島根大学医学部附属病院脳神経外科では、脳動脈瘤破裂によるクモ膜下出血に対して根治術として主に開頭による脳動脈瘤頸部クリッピング術あるいは血管内治療による脳動脈瘤コイル塞栓術を行っております。治療法の選択については患者さんの病状や動脈瘤の位置や形などを総合的に検討して選択しています。

本研究の目的は、脳動脈瘤破裂によるクモ膜下出血症例に対して①可及的速やかな手術加療、②術中の可及的クモ膜下血腫の除去、③可及的速やかな離床がどのような影響を与えたかということを経験情報から分かる範囲で明らかにすることです。特に当施設で治療を行った患者さんにおける特徴として全国平均よりも高齢であることから本研究で得られた結果は、今後の超高齢社会を迎える本邦における高齢者のクモ膜下出血の治療指針を考える上での根拠となることが期待されます。

研究の方法

島根大学医学部附属病院脳神経外科で脳動脈瘤の破裂によるクモ膜下出血に対して手術加療を受けたことのある患者さんを対象として、診療記録の情報を利用します。

利用する情報の具体的な項目は、年齢や性別、動脈瘤の部位や重症度、基礎疾患、

発症日、治療方法や周術期管理、画像情報や予後などの診療情報です。これらの情報は氏名やID、生年月日などの本人を特定できる情報を削除し、代わりに新しい識別番号をつけます。識別番号と個人情報の対応表は、研究責任者以外にアクセスできないようにパスワードを設定して厳重に管理します。上記のように匿名化を行いますので、患者さんのお名前、住所などのプライバシーに関する情報が外部にもれることはありません。

既存の情報のみを使用するため、対象者に何らかの負担が生じることはありません。また、他の機関に当該研究によって得られた情報を提供することはありません。

研究の期間

2020年1月～2021年3月

研究組織

この研究は島根大学医学部脳神経外科学講座が行います。

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2020年7月31日までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部脳神経外科学講座／附属病院脳神経外科 吉金 努

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2245 FAX 0853-21-8954